

第 9 期浜益区地域協議会（R3.10～R5.9）の総括

1. 会議の状況

(1) 任期中の会議の開催状況

・令和3年度 第5回～第8回	計4回	
・令和4年度 第1回～第9回	計9回	
・令和5年度 第1回～第4回	計4回	合計17回

(2) 議論されてきた主な内容

- ① 地域自治区振興事業について
 - ・廃止：フットパスウォーク事業
 - ・継続：区民カレンダー製作事業、浜益区水産物普及プロジェクト
 - ・新規：防災浜リュック事業
- ② 主要事業の概要について
 - ・ワーケーション実証事業など
- ③ 浜益区地域おこし協力隊（第4～5期）の募集
- ④ 集落支援員の募集について
- ⑤ 高齢者に優しいまちづくりに関する意見交換
 - ・高齢者の暮らしに関するアンケートについて
 - ・「雪対策」、「教育・伝承」、「危険対策」グループ討議
 - ・上記3対策に関する情報提供
 - ・高齢者に優しいまちづくり事業の提案
 - 「浜益冬のあんしん事業」（雪対策）
 - 「浜益 web 情報館「浜益宝箱」事業（教育・伝承）」
 - 「浜リハウス事業」（危険対策（危険空き家））
 - 「防災浜リュック事業」（危険対策）
 - ・戸別排雪事業のニーズ調査の実施
 - ・高齢者世帯等の自宅排雪に関するアンケート調査の実施結果について
 - ・おためし排雪事業の実施、結果について
 - ・防災浜リュック事業の実施について
- ⑥ 石狩市過疎地域持続的発展市町村計画について

- ・地域自治区振興事業や浜益区における主要事業、地域おこし協力隊（第4期及び第5期）や集落支援員の募集について議論した。
- ・石狩市過疎地域持続的発展市町村計画（新しい過疎計画）については、計画の評価事項について市から報告を受け、評価内容を協議した。
- ・高齢者に優しいまちづくりについて、グループ討議を行い「雪対策」、「教育・伝承」、「危険対策」の3つの課題に対し地域自治区振興事業を活用して課題解決へ向けた協議を行った。

中でも「危険対策」において、自治会要望の声から事業化した「防災浜リュック事業」は、令和5年度において事業化し、「雪対策」については実証実験を通して経費、事業規模、事業化へ向けた手法に関する課題の収集を行った。

- ・「集落支援員」の導入により、地域の声の収集、空き家情報、移住定住希望者への対応、地域団体の活動支援等、高齢化が進む浜益区において、集落の暮らしを支援する活動を行うとともに、地域協議会へのフィードバックにより見えてきた課題もあった。また、地域おこし協力隊の活動に関する支援も行うなど、双方の活動の展開において相乗効果があった。

2. 第9期委員による振り返り（ポイント）

（1）地域づくりを進めるために

- 少子高齢化の進展により地域活力が弱まり、雇用や担い手の確保、地域や各種団体役員の確保も難しい状況。浜ワークをはじめとする各種団体の若い世代の方々が活発な活動を展開しており、行政や地域協議会において積極的なバックアップ及びかかわりが必要。
- 義務教育学校の設置により、園児、児童、生徒が地域や各種団体のイベントへの参加等、地域とのつながり、より一層の連携が必要。
- 過去の協議内容や成果を振り返り、地域づくりの進捗状況、地域課題の把握に努め、地域の発展や住民の満足度にどのような影響があったかを検証し、今後の方針や目標設定をすることが必要。
- 区民が、地域の課題を自分の事として行動すること、明確な将来像を考えることが大切であり、一つ一つの成功事例を積み上げていくことが大切。
- 高齢化により、農業、漁業の担い手の確保が課題となっている。行政を含め自治会等各種団体の連携や関わり、支援が必要だと考える。
- 何十年先の「未来を見据えた浜益」について地域づくりを考えていくことが必要。
- わかもん会や地域おこし協力隊など、多くの人々が地域を盛り上げようと取り組んでいる。
- 自治会等を通じて、地域住民の声を拾える仕組みが必要である。
- 浜益には素敵どころがたくさんあるので、それを活かしてもっと浜益をPRしてほしい。
- これから開校する一貫校をみんなで盛り上げて素晴らしい学校にできるよう進めてほしい。

- ・ 地域協議会として、より一層地域住民の声を拾い、幅広い視点と明確なビジョンをもって地域づくりに取り組んでいく必要がある。
- ・ 少子高齢化や人口減少が進む中、地域づくりを進めるため、支所（行政）や地域協議会、各種団体はもとより、小中学校や保育園も含めた情報共有や連携が必要不可欠である。

(2) 地域協議会の役割

- 行政と地域、各種団体等との橋渡し役としての機能を充実させ、地域の様々な声や思い等を伝える大切な役割であると思う。
- 各団体の代表として、会議での情報、協議内容等を持ち帰り、課題解決等に生かしていくことが、地域づくりへ繋がると考える。
- 提案型の地域協議会に変えていけることを期待したい。
- 発信力を持った協議会であって欲しい。地域住民の目線、立場に立った存在として「地域協議会でしかできない活動」を進めていくことが必要。
- 自治会や住民の声を協議会で話し合い、より良いまちづくりを目指し、積極的に活動していくことが大切。
- 小中学校や、児童生徒が役立つことがあれば協力していきたい。
- 区民が幸せに暮らせるように先々のことを考えていくことが良かった。
- 高齢者に優しいまちづくりを今後も縁の下の力持ちとして手伝っていきたい。

- ・地域協議会は、行政と地域住民、団体等をつなぐ「橋渡し役」であり、会議の中で積極的な情報収集、意見交換はもとより、各団体内での情報共有から新たな意見が生まれることが大切である。また、「地域協議会だより」などを活用して、区民に的確かつ積極的に情報発信していくことが大切である。
- ・地域住民の声を生かした提案型の協議会に努め、より良いまちづくりを目指して積極的に取り組む姿勢が望まれている。

(3) 地域自治区振興事業について

- 区民の生活の一部となっている区民カレンダー製作事業等への継続支援や、地域づくりに繋がる事業の積極的な掘り起こしが必要となる。
- 高齢者や地域の方々が住み慣れたところで、安心して暮らすことができ、心の豊かさや充足感が得られる事業が必要。
- 各団体より「浜益に必要なより良い何ができるか」を考えていただき、議論を深めていくことが必要。
- 若い人たちの考え等も大いに活用し、既存の発想にとらわれない斬新なアイデア駆使して事業を進めていくことが必要。
- 区民カレンダー製作事業は、例えば過去と現在の写真を対比する等、工夫を重ねて継続してほしい。
- 浜益の新しい観光やまちづくりを進めるため、区民や各団体からアイデアを集めて、計画的に事業を実施していきたい。

- ・浜益地域づくり基金（地域自治区振興事業）を活用した継続事業についてはより一層の工夫を、新規事業については、既存の発想にとらわれず、浜益に必要なより良い何ができるかを検討するため、地域協議会はもとより区内各種団体等からのアイデア募集等を行い、計画的に事業を進める必要がある。

- ・浜益の新しい観光まちづくりを進めるため、区民や各団体とより一層の連携を図り、議論を深める必要がある。

（４）これからの地域づくりに必要と思うこと

- 農業、漁業や商工業をはじめ、福祉施設等の人材確保が困難で深刻な課題。交流人口や関係人口、浜益区への移住定住につなげる施策展開が急務。
- 地域の活性化、これからのまちづくりのため、「地域おこし協力隊」のさらなる導入活用や、「集落支援員」の増員等により、限界集落、準限界集落への支援を強化し、地域の元気を高め、住み慣れた地域で心豊かに安心して暮らせるまちづくりが必要。
- 若手人口を増やさなければ、地域の衰退は免れない。浜益に移住したいと思わせるアクションを起こして、人材を確保すれば地域の活性化につながる。
- とにかく行動を起こすこと。
- 高齢者に優しいまちづくりが遠くになりつつあると感じ不安がある。地域住民が安心して暮らせる環境づくりが必要。
- 外部の視点を取り入れ、客観的な視野で地域づくりを考えていくため「地域おこし協力隊」の存在をさらに強大にしていくことが必要。
- 浜益への移住、定住者が増える山村留学や、働き口の確保等を一体的に進めることが望ましい。しかし、実践に関しては大きなハードルがあると感じている。
- 若い子育て世代の定住者の増加がカギになると思う。住宅確保の問題をクリアしつつ、体験型観光の実施、アルバイトの確保等、区外からの人を増やすことを考えていきたい。
- 子どもが少ないので、子どもたちと大人が協力した何かをしたい。
- 地域おこし協力隊や集落支援員とともに高齢者に優しいまちづくりを進めていきたい。

- ・農業・漁業をはじめ区内産業全般の持続、福祉施設等の人材確保など、担い手不足の課題解決のため、移住・定住に関する取り組みの検討（特に若手や子育て世代の人口増加）が喫緊の課題となっているため、スピード感を持った行動が必要。
- ・地域の活性化、これからのまちづくりのため「地域おこし協力隊」のさらなる導入、活用や「集落支援員」の増員により、外部の客観的な視点を取り入れ、区民や移住者が、心豊かに安心して暮らせるまちづくりを進めることが必要。

（５）その他

- 一定の会議形式は必要と考えるが、様々な意見を気軽に言い合える場としたい。
- 誰かがやってくれるだろうという姿勢ではなく、自分の立場に置き換えた前向きな会議（意見交換）の場であるべき。
- 住民の声を届けられる協議会でありたい。
- 協議会委員が楽しく、やりがいを持って積極的に地域を盛り上げていく姿勢が必要。
- 会議形式を維持しつつ、グループでの意見交換や提案を試してみるなど、様々な工夫を行って協議会を進めてみてはどうか。
- コミュニティの場が区内に増えれば、高齢者に優しいまちづくりの一助となると思う。

- ・地域協議会委員が楽しく、やりがいをもって様々な意見を気軽に、積極的に発言できる環境、住民の声を届けられる環境であることが望まれる。
- ・会議形式を維持しつつ、グループ討議などを通じた提案を取り入れるなどの工夫をして、気軽に発言できる環境づくりが必要である。
- ・コミュニティスペースに集まって気軽に話すことで、高齢者に優しいまちづくりの一環として情報を得る場になりうる。

3. 第10期への引継ぎ事項

- 地域協議会と支所（行政）、各種団体、小中学校や保育園も含めより一層の連携を深め、多くの地域の声を拾い上げ、幅広い視点と明確なビジョンをもって地域づくりに取り組んでいく。
- 地域協議会は支所（行政）と地域住民、各団体をつなぐ橋渡し役として、情報収集、意見交換、情報共有、情報発信に努め、地域住民の声を活かしたより良いまちづくりを目指して積極的に取り組んでいく。
- 浜益地域づくり基金について、継続事業についてはより一層の工夫を、新規事業については、既存の発想に捉われず、浜益に必要なより良い何かを発掘し、また、浜益の新しい観光まちづくりを進めるため、区民や各団体との連携を深め、計画的に事業を進めていく。
- 区内産業、福祉施設等の担い手不足の課題解消のため、移住・定住に関する取り組みを、スピード感をもって実施していく必要がある。
- 地域の活性化やこれからのまちづくりの推進のため、「地域おこし協力隊」のさらなる導入、活用や「集落支援員」の増員により客観的な視点を取り入れ、区民や移住者が心豊かに安心して暮らせるまちづくりが必要である。
- 地域協議会委員が、楽しくやりがいを持って様々な意見を気軽に、積極的に発言できる環境と住民の声を届けられる環境であることが望まれる。
- 地域協議会の会議において、様々な手法を取り入れ気軽に発言できる環境づくりが必要である。